

風土記の丘の花だより¹⁹⁶

今、そしてこれから見られる植物(2023年7月29日)

梅雨明けから続く連日の猛暑、どこまで暑くなるのか不安になってきます。まだ体温を超える日はありませんが、遠からずそんな日も来そうです。そんな中でも植物たちは元気に頑張っています。



こんな涼しげな花が咲いています。シロバナサクラタデです。万葉植物園で見ることができます。大池の西岸にも大きな群落があるのですが、今はクズが生い茂っていて近づくことができません。一番普通のイヌタデのように、タデはピンク色というイメージが強いですが、この花は真っ白です。水辺が好きで、湿ったところに群落を作って生えます。この花を眺めていると、この暑さも少しは和らぐでしょうか、どうでしょうか・・・。



サネカズラの花がひっそりと咲いています。「ひっそり」というくらいですから探すのは難しいです。大きさは1センチ程度、それも高い所で、からまりあったツルの中で咲いているので、探していると眩しいし、首は痛いし、見つければいいのですが、あきらめてしまうと、疲れだけが残りますね。サネカズラは別名をビナンカズラ(美男葛)ともいい、茎から取れる粘液は昔の整髪料でした。これは新池の西のツバキに絡まったツルで撮影しましたが、この時期あちこちで見られます。



サルトリイバラの実がなっています。この葉は和歌山あたりでは端午の節句の柏餅に用いるので、よく知られた植物です。昔はその時期になると花屋さんで束にして売っていた記憶があります。でも親はそれを買わずに、私たち子どもが山に取りに行かされました。(何十年昔の話でしょうか) この植物は雌雄異株で、雌株にだけ実ができます。この実は冬に真っ赤に熟し、クリスマスリースなどにくっつけて楽しむ人もいらっしゃるようです。



少し小さく写ってしまい、見にくいですが、この花はタケニグサです。花だよりを置いているところの坂を上りながら左側を眺めていると1本だけ生えているのが見えます。野外では、造成地や荒地などに多く、山崩れなどで裸地になったところにいち早く生えてくる植物の一つです。ある方に「これは私が生まれ育った地域ではくえごんぼ と言います」と教えていただきました。「くえる」とは斜面などが崩落することで、そんなところに生えるごぼうという意味でしょう。昔の人はよく観察していたのですね。でもごぼうの仲間ではなく、ケシ科の在来植物です。漢字では「竹似草」、茎が細長く竹に似ているからです。それにしても暑い!!! 松下